

1. 阿佐谷商店街振興組合（阿佐谷パールセンター）商店街診断

中津留 準

当商店街は阿佐谷地域の中心に位置し、JR 阿佐ヶ谷駅から青梅街道までの 700m を南北に伸び、約 240 店の商店で構成されている。杉並区内では有数の繁華街であり、午前中から午後 8 時頃まで人通りが絶えず、いつも賑わっている。アーケードがあるため、雨天でも人通りはあまり変わらない。毎年 8 月上旬に開催される七夕まつりが有名であるが、他にもジャズストリート、ハロウィンなどのビッグイベントがある。商店街の中心にある組合事務所を地域のコミュニティ施設に活用する構想のもとに、4 年前に都の助成金事業の適用を受けて「阿佐ヶ谷わがふるさと館」を開設し、絵や写真の展示会、生活相談会、阿佐谷案内人（コンシェルジェ）の配置など、さまざまな活動を展開している。さらに他の商店街にはない「通行量自動計測装置」、「視覚障害者用音声誘導装置」、「防犯カメラ」も設置され、ハード・ソフトとも万全な体制とみられている。大変活性化された商店街で、表面的には何の問題もないように見える。

ところが、この商店街にも大きな問題が発生した。商店街の 4 か所の地点に「通行量自動計測装置」が設置されており、常時通行量が計測されているが、昨年 9 月以降の通行量が前年に比べて減少し、この傾向は現在まで続いている。役員に聞くと、各個店の売上も減少しており、大変深刻な問題とのことであった。何故来街者数が減少しているのか原因が分からないため、これを調査して対応を図る方法がないだろうかとの相談があった。そこで当会の今年度の商店街診断は当商店街で実施することにし、来街者減少の原因調査と、その対策の提案を行うことにした。

会員アンケート調査は、メンバーが手分けして約 240 店の個店を訪問、趣旨を説明してアンケート用紙を配り、後日役員が回収をするという方法をとったが、他の調査が終わった後にこれを実施したために回収が 7 月上旬となり、当初予定の 6 月末までに報告会を実施するということができなくなった。しかし、この種の調査としては比較的回収率がよく、44%の回答が得られて診断の貴重なデータとなった。

調査の結果さまざまなことが分かったが、主なものは次のとおりである。

- ・ 商圏分析...杉並区の平均的な状況と同じで、25～35 歳、60～65 歳の人口が多い。
- ・ 業種構成分析...比較的バランスが取れており、またコーヒーが飲める店（休憩できる店）は北口の比率が多いものの各地域に分散して所在している。
- ・ 通行量データ分析...昨年以後ではなく、通行量計測が始まった平成 20 年 6 月以後は一貫して微減傾向にある。また土曜日の減少率が最も多い。最大のイベントである七夕まつりの来街者数は微増傾向にあるが、この期間の JR 阿佐ヶ谷駅の乗降客数が増えていないことからみて、七夕祭りの来街者は近隣からが多いとみられる。
- ・ 来街者アンケート分析...ほとんどが近隣の住民で買い物目的の来街が多く、うち 6 割が毎日または隔日に来街しており、地域密着型の商店街であることが分かった。またイベントの認知度は高く参加者も多いが、「阿佐ヶ谷わがふるさと館」の認知度

は低く、あまり活用されていないことも分かった。

- ・ 会員アンケート分析...暮らしを応援する地域密着の商店街という意識を持った会員が多い。また顧客は 30～70 代が主であるが、店では 20 代の顧客の増加を望んでいる。七夕まつりの販促効果は飲食業をはじめ小売業・サービス業ともに一定の効果を受けており、概ね成功しているとみられる。
- ・ 商店街の資源分析...交通の便の良い場所に立地、比較的所得が高い豊富な商圏人口、組織率の高い商店街組織とそれを運営する理事会組織、アーケードなどとハード設備、七夕まつりなどのソフト事業などが商店街の資源として抽出された。
- ・ 類似商店街調査...近隣で最も類似した環境に立地する商店街として「ハッピーロード大山商店街振興組合」を選定して調査した。この商店街の組織運営、商店街活動は他に例を見ないほど素晴らしく、参考になる事例が多数あった。
- ・ 競合調査...高円寺と荻窪（教会通り新栄会）の活性化事例を紹介した。

以上の分析結果により、商店街のコンセプトを「地域に愛されるファミリー向け商店街」とした。

具体的な施策の提案は以下の通り。

「ワンコインセールで売上の拡大」

「得する街のゼミナール“まちゼミ”」

「空き店舗の活用」

「IT を活用した、商店街情報の発信による、各商店の売上支援」

「通行量データの活用」...通行量データの具体的な活用方法を提案。

「理事会と組合員との連携強化」

7月中旬～8月中旬は七夕まつりで日程が取れず、診断報告会は8月22日に実施し、3か月にわたった診断業務が終了した。

2. 「阿佐谷進交会」の支援について

営 務

(1) 商店街の概況

「阿佐谷進交会」は杉並区の中心部、JR 総武・中央線「阿佐ヶ谷駅」北口の東西の高架沿い約 150 ㍍を中心とした近隣型商店街である（阿佐ヶ谷駅周辺は南北の改札口を中心に 14 の商店街が存在、北口駅前に大型店「西友」がある）。

当商店会の立地状況としては、阿佐谷北 1 丁目を主体として、周辺には地元で有名な神明宮や世尊院、杉並第 1 小学校、河北総合病院などが存在する。また、当商店会の加盟店は現在 43 店で、多い店舗としては食料品関連で 10 店、次いでクリーニング店と建築会社（電気や造園含む）6 店、薬局・薬店と飲食店 4 店、理美容店 3 店、教会、公衆浴場もある。ただ、近年徐々ではあるが、店舗が減少傾向にある。

(2) 商店街の主な活動状況

当商店会の主な活動としては、一昨年度は東京都の「LED 化事業の推進」により、明るい街、商店会の美化、歩行者の安全・安心の確保などを目的とした街路灯の LED 化が推進され、昨年 2 月、無事に完了し、商店会全体が一段と明るくなった。

次に、杉並区内共通券である「なみすけ商品券」が年 2 回に分けて発売され、今年度も前期分は即日に完売した。また、当商店会の恒例行事は、主に次の 2 点が挙げられる。

1 点目は、毎年初秋に阿佐谷地区の商店街全体が協力して開催している「神明宮祭礼」が有名で、数多くの地元住民が参集して来る。次いで 2 点目は、毎年 12 月第 1 日曜日に開催される「餅つき大会」があるが、毎年 400 名以上の人々が参加し賑わっている。

(3) 主な支援活動

当商店会へは一昨年 7 月から支援活動している。また、この間の主な支援活動としては、「LED 街路灯の設置」を重点に、「神明宮祭礼」や「餅つき大会」への推進と参加や諸事案に対する支援を行い、お陰で商店会員や地域住民方とも交流を深めることができた。

また、当商店会の役員会（6 名で構成）は毎月 10 日・午後 8 時半から 2 時間程度開催されているが、各人年齢的に近く（60 歳後半が中心で、殆どが幼なじみである）協力体制は良く結束力も強い。さらに昨年度では、より集客力を高めていくための新規活動として、私のネットワークを活かし、12 月の「餅つき大会」では「新潟・佐渡の特産品販売」を併設し、これまで以上の賑わいが見られた（今後も恒例化 名物化行事に繋げていく）。

(4) 新たな取組みに向けて

当商店会への支援事業（中小企業診断協会商店街支援事業）は、本年 3 月末で終了した。

しかし、当商店会としては、その後も新たな取組みを行いたいとの意向が強く、特に「ホームページのリニューアルをしたい」との要望があり、私も適宜相談に乗らせてもらった。また、その後、情報関連に強い中小企業診断士の協力を得ることができた。現在、毎月 1 度、「役員研修会」の一環（これまでに 3 回支援済み）として、またボランティア活動として、他の診断士と共に支援活動を行っている（本年 12 月に完成予定）。

3 . 和泉仲通り商栄会の支援について

河合史門

(1) 和泉仲通り商栄会と私

現在、私は、和泉仲通り商栄会の活性化支援をしています。最初は、杉並区の商店街アドバイザーとして、毎月役員会に参加していました。そのうち、当会の手塚会長からこの商店会の来街者の流れを知りたいと言われたため、商店街診断を行いました。

その際、NPO法人杉並中小企業診断士会の多大な協力を得ました。2008年春のことです。この商店会は、杉並区の南東に位置する近隣型商店会で、京王線「代田橋駅」から徒歩5分。商店会中央にスーパー「つかさ」があり、これが核店舗になっています。商店会としての長さは800m程度ありますが、全体として、商店の密集度は低く、ことに北部300mはその傾向が顕著です。

(2) 当該商店会の問題点と支援

この商店会の問題点は、近時空き店舗が増加していることです。商店街診断をした当時60店舗以上あった店舗数が、現在は51店舗に減少しています。その原因としては、店主の高齢化と後継者不足が大きいのですが、近時の景況悪化も背景にあるといえましょう。

診断士（もしくは診断士会）としてできることは、起業セミナーを行い、起業に興味のある方を募るとともに、空き店舗を洗い出し、店舗オーナーと出店希望者とのマッチングを行うことだと思います。さらには、起業に対してイメージはあるものの、現実の店舗運営の経験のない方にはインターンシップ（希望業種の店舗で実際に労働を体験していただけるよう診断士がマッチングする）制度等も考えられます。

これらの活動は、まだ緒についたばかりではありますが、成果を生みつつあります。

(3) 当商店会の将来

当商店会は、近隣に、和泉小学校・和泉中学校・日大鶴ヶ丘高校・専修大学付属高校と学校が多く、商店会との関係も良好です。また、熊野神社もあり、神社への参詣客も商店会を歩きます。北側に少し足を伸ばせば神田川にいたり、桜のシーズンには、花見客も集まります。

このように、あまり気がつかない資源を持っています。現在、近隣の学校から、生徒の作製した絵画などの作品を借り受け、商店の店頭に掲示すると言う、ストリートギャラリーや、その場で景品がもらえるスピード三角くじを、年に数回実施し、好評を得ています。

この和泉仲通り商栄会が、その強みと機会を発見・活用することによって、一層発展することを願うとともに、その手助けを精一杯やったいこうと思っています。